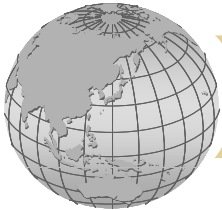


# 住友信託のマンスリ一年金運用情報

2010年4月号



## ～住友信託の経済・市場情報～

### Contents

#### ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
- ✓ 投資環境(国内)
- ✓ 投資環境(海外)
- ✓ 投資環境(為替)
- ✓ 主要ベンチマークの推移

#### ● 見通し

- ✓ 内外経済
- ✓ 国内資産・海外資産・為替

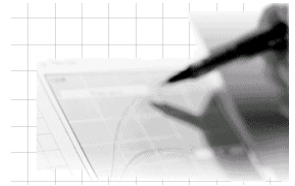
#### ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・アジアのGDP成長率
- ✓ 今月のトピックス



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行



---

## ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
  - ✓ 投資環境(国内)
  - ✓ 投資環境(海外)
  - ✓ 投資環境(為替)
  - ✓ 主要ベンチマークの推移
-

## 経済・市場振り返り ～3月の主な経済指標・ニュース(国内)～

月日	国内
3月8日	2月の景気ウォッチャー調査によると、現状判断DIは42.1と1月の38.8から上昇。先行判断DIも44.8と1月の41.9を上回った。
3月9日	1月の景気動向指数によると、一致指数CIは前月比2.5ポイント上昇の99.9となり、10ヶ月連続で上昇。先行指数CIは2.4ポイント上昇の97.1。
3月10日	2月の国内企業物価指数は前年同月比1.5%低下し、前年比マイナスは1年2ヶ月連続。前月比は0.1%上昇。
3月11日	10-12月期の実質GDPは2次速報値では前期比年率3.8%増。1次速報値(同4.6%増)から下方修正。在庫投資などの下方修正が主因。
3月18日	2010年1月1日時点の公示地価は全国平均(全用途)で前年比4.6%下落し、2年連続で前年を下回った。
3月24日	2月の貿易統計速報(通関ベース)によると、輸出は前年同月比45.3%増と前月(同40.9%増)から拡大。輸入額も同29.5%増と前月(同8.8%増)を大幅に上回った。
3月26日	2月の全国消費者物価指数(除く生鮮食品、コアCPI)は前年同月比1.2%低下と12ヶ月連続のマイナス。3月の東京都区部コアCPIは同1.8%低下。
3月29日	2月の小売業販売額は前年同月比4.2%増。前月比(季節調整済み)では0.9%増。
3月30日	2月の鉱工業生産指数は前月比0.9%減と、12ヶ月ぶりのマイナス。前年同月比では31.3%増。
	2月の完全失業率は4.9%と前月から横ばい。2月の有効求人倍率は0.47倍と前月から0.01ポイント上昇し、2ヶ月連続で改善。

Note

## 経済・市場振り返り ～3月の主な経済指標・ニュース(海外)～

月日	海外
3月11日	1月の米貿易収支によると、貿易赤字は前月比6.6%減。輸入が5ヶ月ぶりに減少に転じたことなどが主な要因。
	3/6終了週の新規失業保険申請件数は46万2000件で、前週の46万8000件から小幅減少。
3月12日	2月の米小売売上高は前月比0.3%増、前年比3.9%増。
3月15日	2月の米鉱工業生産指数は前月比0.1%上昇し、8ヶ月連続でプラス。前年同月比では1.7%上昇。
	2月の設備稼働率は72.7%と、2008年12月以来の高水準。
3月16日	2月の住宅着工件数は年率換算で前月比5.9%減と、2ヶ月連続のマイナス。
	2月の輸入物価指数は前月比0.3%低下。前月比でのマイナスは7ヶ月ぶり。 FRBはFOMC声明を発表し、FF金利の誘導目標を0-0.25%に据え置くとともに、金利を長期間ゼロ付近に維持する方針をあらためて示した。
3月18日	3月のフィラデルフィア連銀景気指数18.9と、前月の17.6から上昇。
3月24日	2月の米耐久財受注額は前月比0.5%増。変動の大きい輸送用機器を除く受注は前月比0.9%増。
	2月の米新築住宅販売件数は前月比2.2%減。減少は4ヶ月連続。 格付会社フィッチ・レーティングスはポルトガル長期格付けを「ダブルA」から「ダブルAマイナス」に引き下げたと発表。格付け見通しは「ネガティブ」。
3月26日	10-12月期の米実質GDPは前期比年率5.6%増。改定値の5.9%増から下方修正されたものの、過去6年で最大の増加率となった。
	3月のミシガン大学消費者信頼感指数(確報値)は73.6と、前月と変わらず。
3月29日	2月の米個人消費支出は前月比0.3%増加し、5ヶ月連続のプラス。個人所得は前月比変わらずの横ばい。

Note

# 経済・市場振り返り ～投資環境(国内)～

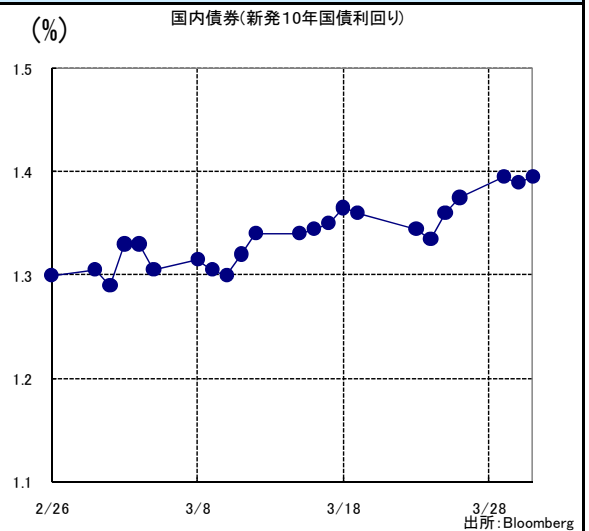
市場インデックスの推移	09/03月	10/01月	10/02月	10/03月	前月比	前年度末比
NOMURA-BPI総合	316.24	322.91	323.28	322.69	- 0.18%	+ 2.04%
新発10年国債利回り(%)	1.34	1.32	1.30	1.40	-	-
日興CBインデックス(総合)	538.78	620.84	619.51	645.37	+ 4.17%	+ 19.78%
東証株価指数(配当込み)	945.72	1,108.64	1,100.41	1,214.95	+ 10.41%	+ 28.47%
日経平均株価	8,109.53	10,198.04	10,126.03	11,089.94	+ 9.52%	+ 36.75%

## 国内債券

3月の国内長期金利は1.3%台前半から後半まで上昇しました。

上旬は、国内株式の上昇が金利上昇要因となる一方で、日銀の追加金融緩和策への期待が金利低下要因となり、国内長期金利は一進一退で推移しました。中旬は、国内株式が上昇基調であること、日銀の追加金融緩和策が期待以上のものではなかったことから、債券は売りが優勢となり、国内長期金利は上昇しました。下旬は、米国債入札が不調であったことによる米国長期金利の上昇、国内株式の上昇を受けて、国内長期金利は上昇しました。

結局、国内長期金利は1.40%(前月比+0.10%)で月末を迎えました。

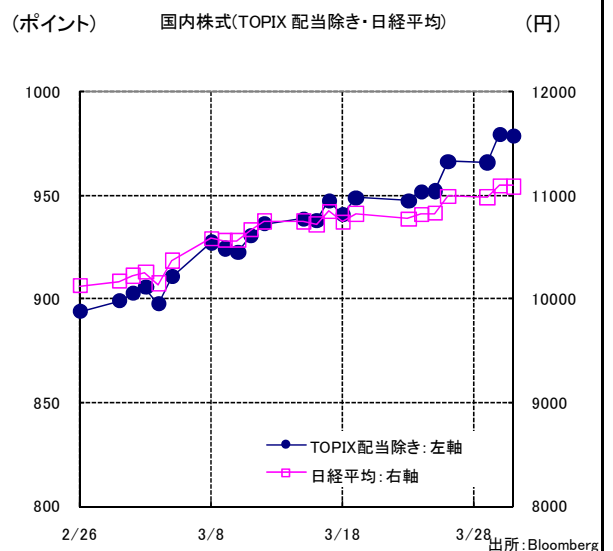


## 国内株式

3月の国内株式市場は上昇し、日経平均株価は11,000円台に回復しました。

上旬は、国内外の経済指標の改善が好感されて堅調に推移すると、日銀が追加金融緩和策の検討に入ったとの報道や米雇用統計の改善が好感されて続伸しました。中旬は、高値警戒感から伸び悩む局面があったものの、日銀の追加金融緩和策を背景とした為替の円安進行などから輸出関連を中心に堅調に推移しました。下旬は、短期的な加熱感から利益確定の売りが出る局面があったものの、円安進行により企業業績の改善期待が高まったことや、ギリシャの支援策が合意に向かいつつあることが好感されて堅調に推移しました。

結局、TOPIXは978.81(前月比+9.47%)、日経平均株価は11,089.94円(同+9.52%)で月末を迎えました。



# 経済・市場振り返り ～投資環境(海外)～

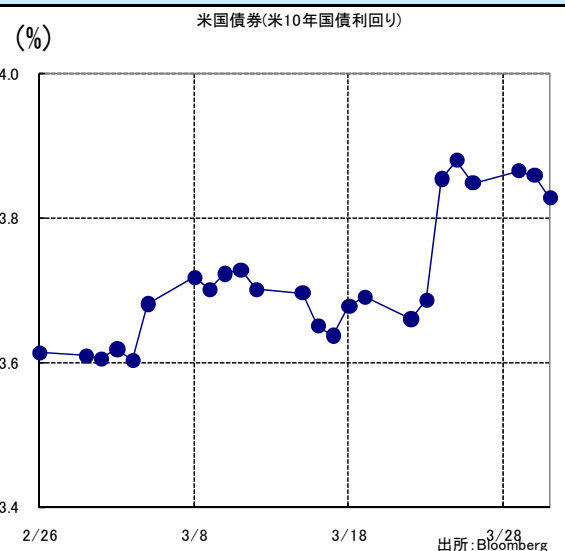
市場インデックスの推移	09/03月	10/01月	10/02月	10/03月	前月比	前年度末比
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	313.82	307.37	299.67	314.39	+ 4.91%	+ 0.18%
米国10年国債利回り(%)	2.67	3.59	3.61	3.83	-	-
MSCI世界株式インデックス(円ベース)	804.54	1,060.93	1,055.46	1,180.68	+ 11.86%	+ 46.75%
ニューヨークダウ(工業株30種)	7,608.92	10,067.33	10,325.26	10,856.63	+ 5.15%	+ 42.68%
ナスダック総合指数	1,528.59	2,147.35	2,238.26	2,397.96	+ 7.14%	+ 56.87%

## 米国債券

3月の米国長期金利は上昇基調で推移しました。

上旬は、ギリシャ支援観測が高まったことや2月の米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を上回ったことから、長期金利は上昇しました。中旬は、FOMC声明文で超低金利政策維持期間に関する「長期にわたり」の表現が変わらなかったことから、長期金利に低下圧力がかかりました。下旬は、5年債・7年債入札が非常に不調な結果になったことから、一時3.9%台前半まで上昇しました。その後、利回り上昇で投資妙味が出たこと等を受けて債券買いが入り、長期金利には低下圧力がかかりました。

結局、米国長期金利は3.83%(前月比+0.22%)で月末を迎えました。

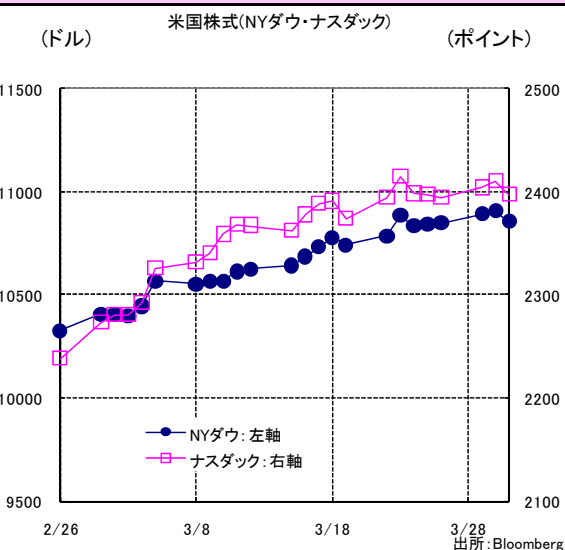


## 米国株式

3月の米国株式市場は、2ヶ月連続の上昇となりました。

上旬は、ISM製造業指数や雇用統計の改善を受けて景気の先行き不透明感が後退し、堅調に推移しました。中旬は、経済指標はまちまちの内容となったものの、FOMCにおいて低金利政策の継続が示唆されたことが好感されて堅調に推移しました。下旬は、医療保険制度改革法案の成立や住宅関連指標の改善が好感されて上昇しました。その後、ポルトガルの格下げを受けて欧州の財政に対する懸念が高まったものの、ギリシャの支援策が合意に向かいつつあることなどから影響は限定的となり、低金利政策が継続されるとの見方などから底堅く推移しました。

結局、NYダウは、10,856.63ドル(前月比+5.15%)、ナスダックは2,397.96(同+7.14%)で月末を迎えました。



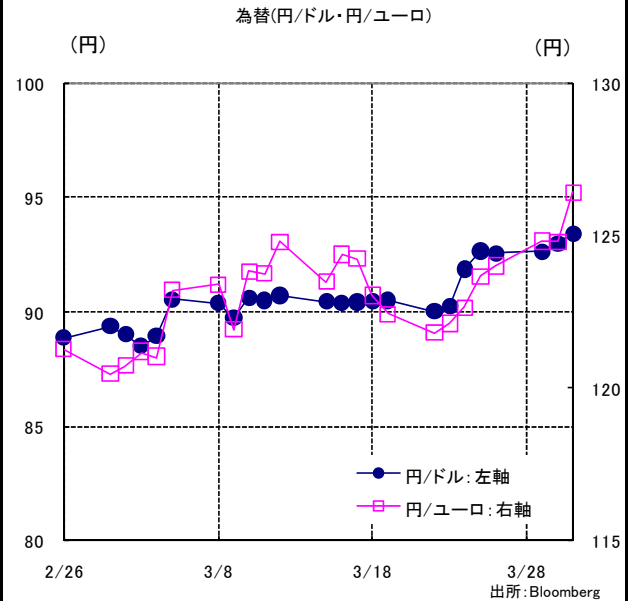
# 経済・市場振り返り ～投資環境(為替)～

市場インデックスの推移	09/03月	10/01月	10/02月	10/03月	前月比	前年度末比
円/ドル相場(ロンドン16時)	98.77	90.65	88.87	93.44	+ 5.15%	- 5.40%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	131.14	126.01	121.27	126.43	+ 4.25%	- 3.59%

## 為替

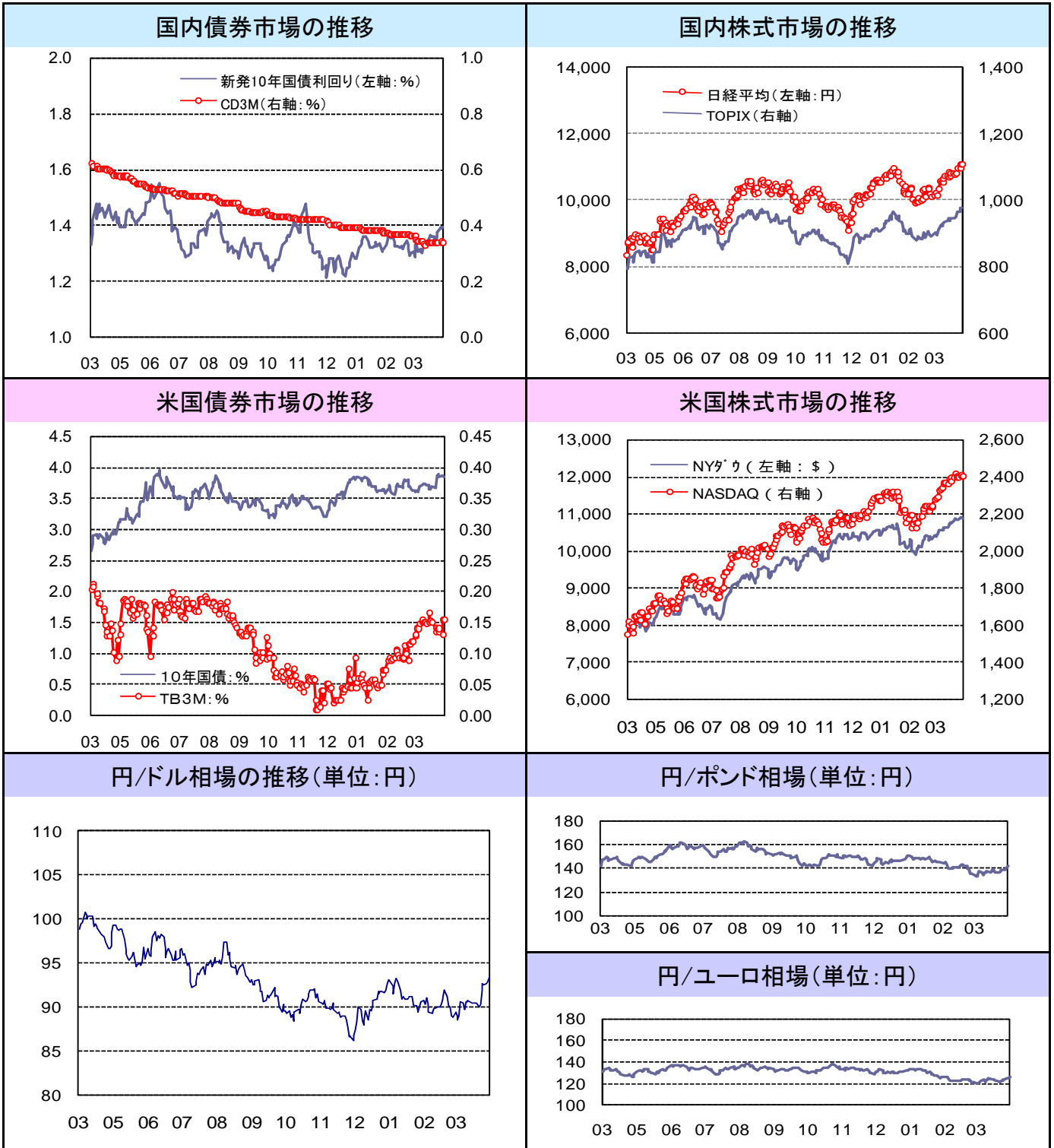
3月の円/ドル相場は89円台前半から93円台半ばまで円安が進行しました。上旬は、米新規失業保険申請件数が市場予想通り減少したこと、2月の米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を上回ったこと等を受けて、円安・ドル高が進行しました。中旬は、日米の低金利政策が長期化するとの見方から、円ドルは横ばいで推移しました。下旬は、日米の金利差拡大を受けて円安が進行しました。結局、円/ドル相場は93.44円(前月比+4.58円)で月末を迎えました。

円/ユーロ相場は120円台半ばで始まり、上旬から中旬にかけてギリシャの追加財政再建策の発表等によりユーロ高で推移しました。下旬は、欧州圏内でギリシャの支援策とりまとめが難航しているとの見方からユーロ安が進行する局面もありましたが、その後、ユーロ圏によるギリシャ支援の合意を受けてユーロ高で推移しました。結局、円/ユーロ相場は126.43円(前月比+5.16円)で月末を迎えました。



## Note

# 経済・市場振り返り 主要ベンチマークの推移(09/4~10/3)



出所: Bloomberg